



[3学系7コース]から[4学系12コース]へ
国際総合科学部はさらに進化します

YU・深い、専門性と豊かな教養

世の中の動きや社会のニーズに柔軟に対応し、国際総合科学部は3学系7コースから“4学系12コース”に進化します。

2012年度入試は現行の3学系で募集します。

学系の学びと深く結びつく
大学院を設置しています。

国際総合科学部の4学系12コースで学んだ研究テーマについて、より深く探究するための大学院「都市社会文化研究科」「国際マネジメント研究科」「生命ナノシステム科学研究科」を設置。改編後の学系の学びとも密接に連動するなど、学生の知的好奇心を大いに満たす環境が用意されています。なお、研究テーマによって、大学院医学研究科への進学も可能です。

大学院への進学

都市社会文化研究科

国際都市発の人文・社会科学を創造

国際都市「横浜」を舞台に、現実の都市問題に学際的な視点で実践的に取り組み、本学ならではの人文・社会科学を創造します。

都市社会文化専攻（博士前期/後期）

国際マネジメント研究科

国際市場に強い人材を育成

国際的な経済環境の変化をすばやく察知し、的確な戦略を構築することで企業の海外進出を支援できる人材の育成を目指します。

国際マネジメント専攻（博士前期/後期）

生命ナノシステム科学研究科

新視点で生命システムを解明

生命システム領域に対し、物理・化学・生物学領域の融合を進めるなど、これまでにない新しいアプローチで教育・研究を進めます。

ナノシステム科学専攻
 生体超分子システム科学専攻
 ゲノムシステム科学専攻
(博士前期/後期)

設置準備中

生命医科学研究科(仮称)

現代医学の発展に大きく貢献



※各学系への進級は入試区分と対応しています（上記矢印）。対応しない学系への進級も一定の条件のもとで可能です。

自らを知り、自らの将来を切り開く 国際総合科学部へ

1年次の学びのなかから自分自身の課題を見つけ出したあなたは、
専門分野の学びを通して、進むべき将来の道をしっかりと歩み始めます。
国際総合科学部の、学生一人ひとりの未来をしっかりサポートする教育システムがさらに充実します。
あなたの知的好奇心、そしてチャレンジ精神を大いに刺激するはずです。

1 目的がより明確になる 4学系 12コース

国際総合科学部 改編のポイント ▶

従来の3学系（国際教養学系、経営科学系、理学系）に国際都市学系を加えた4学系の構成とし、各学系のもとにはそれぞれ3つのコースを設けます。学系としての教育のまとまりを基礎に、関心や専門性に応じたコースでの教育が行われます。卒業時に取得できる学位にそった教育プログラムがより明確になり、より確かな"学びの質保証"につながっています。

- **国際教養学系**
 - 人間科学コース
 - 社会関係論コース
 - 国際文化コース
- **国際都市学系**
 - まちづくりコース
 - 地域政策コース
 - グローバル協力コース
- **経営科学系**
 - 経営学コース
 - 会計学コース
 - 経済学コース
- **理学系**
 - 物質科学コース
 - 生命環境コース
 - 生命医科学コース



国際総合科学部長 岡田 公夫

国際総合科学部で学び、
自信をもって自分の将来を語れるようになってください。

グローバル化が急激に進む社会においては、幅広い視野でものごとに対処することが求められます。つまり、ただ専門知識だけを身につけても、社会で活躍できる舞台は限られてしまうのです。そこで横浜市立大学では、2005年に国際文化学部、商学部、理学部の3学部を国際総合科学部へと統合し、それまで学部ごとに分かれていた学びのシステムを取り払い、横断的に学べる体制を構築しました。学生たちは、従来の3学部基準の3学系（国際教養学系、経営科学系、理学系）で専門性を深めつつ、共通教養科目によって、その専門性を活用する基礎としての教養を学べるようになりました。そして2012年度からは、国際都市横浜に位置する大学ならではの学びを展開する「国際都市学系」を新しく追加して4学系体制とし、将来の進路を見据えてコースの教育体系もより明確にしました。さらに進化した国際総合科学部で、学生一人ひとりが自分自身の目標を見だし、世界に貢献できる人材へと羽ばたいてくれることを期待しています。

2 新しい学系 「国際都市学系」 理学系の新コース 「生命医科学コース」

開港150年余の歴史を持つ国際都市「横浜」は、常に時代の先を行き、発展を続けるまちです。時代の先端を進むということは、常に新たな課題に直面するというでもあります。横浜の課題は、ただ一都市の個別的課題ではなく、未来の世界を考えるために解決されるべき普遍的課題であると言えます。横浜という都市を舞台に、その課題を発見し解決策を考える。そのための基本的な学問を学び、フィールドワークなどを通して実際に課題に取り組むことで、自ら考え、自ら行動できる"自己実現型"の人材育成を目指します。核となるのは「まちづくり」「地域政策」「グローバル協力」の3コース。国際都市横浜が設置する横浜市立大学だからこそ実現した新しい学びの分野です（詳しくは9ページ）。

理学系には横浜市立大学の先端研究の中核である鶴見キャンパス（生命ナノシステム科学研究科 生体超分子システム科学専攻）および福浦キャンパス（医学部）と連携した「生命医科学コース」が新設されます（詳しくは14ページ）。

- 国際都市横浜ならではの「国際都市学系」
- 医学と理学の融合による「生命医科学コース」の創設

3 切磋琢磨で磨く コミュニケーション力

国際総合科学部の学生たちは、それぞれが目指す専門分野に軸足を置きつつ、幅広い知識を身につけることになりませんが、現代社会でさらに求められているのがコミュニケーション能力です。社会では自分ひとりの力で推し進められる仕事は、ほとんどありません。各分野のプロが力を結集しながら進めるのが仕事の基本と言えます。とくに近年は、人と人、企業と企業などが連携してプロジェクトを展開する"コラボ"が主流。専門性を究めながらも人とコミュニケーションをとれる能力の向上は欠かせないテーマなのです。本学部では4学系12コースへの再編で、より多彩な個性を持つ学生が集まるようになります。横断型の学びのスタイルは、異分野の人との交流を実現させるのに有効です。自分の専門性を確立すると同時に他者の専門性も認識することで、自分の立ち位置、そしてやるべきことがきつと見えてきます。

- 個性豊かな学友と出会い、触れ合える環境
- 人との交流で自分の立ち位置をしっかりと理解



横浜市立大学の学びの ベースとなる共通教養

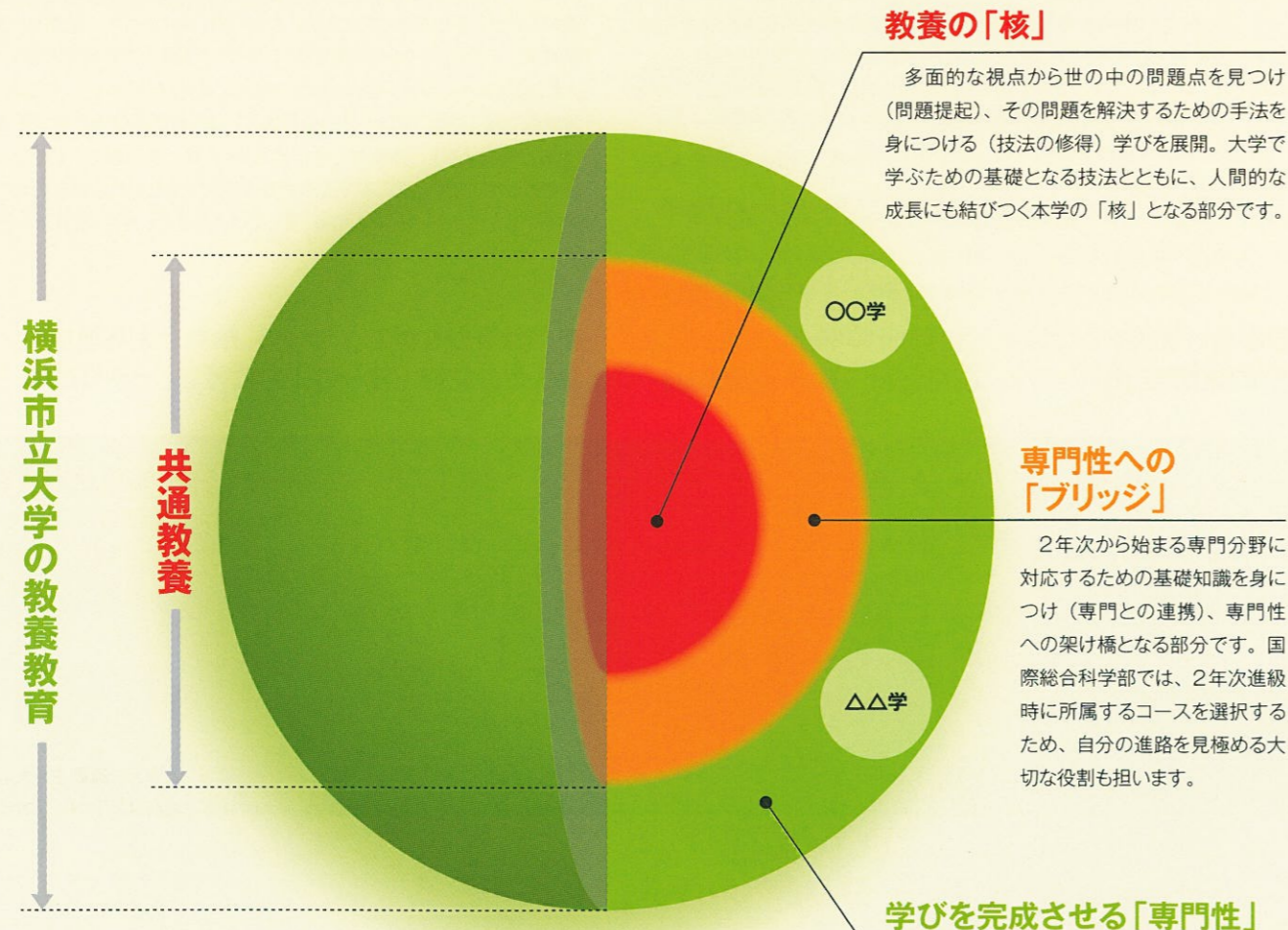
YCU教養教育の根幹をなす 共通教養の学び

「共通教養」は、横浜市立大学の教養教育の土台（ベース）となる学びの核です。所属学部、学科・学系に関係なく、学生全員が1年次に共通教養で学びます。「問題提起」「技法の修得」「専門との連携」を3つの柱とする学びを展開し、「自ら問題を発見し、解決する力」を身につけ、2年次からの専門的な学修に備えます。

たとえば、教養ゼミでは30人前後の少人数制クラスで学びます。文系理系を問わず、それぞれ目的の異なる学生が集まるため、お互いに刺激を与えながらの学修が可能です。また、異なる専門分野をもつ2名の教員がクラスを担当します。

ほかにも、社会の第一線で活躍するゲストスピーカーを招いて興味関心の気づきを促したり、問題発見と解決の手段を具体例から学んだり、専門分野の入門科目に触れたりなど、高校とは異なる“大学ならではの学び”を体験していきます。このように、共通教養を通じて、自分の視野を大きく広げつつ、2年次からの専門にも対応できる知識と技術を身につけることができます。

なお、横浜市立大学の学びのベースである共通教養は、2年次以降も学生一人ひとりの人間形成のために継続されます。



共通教養の3つの科目群

自ら問題を発見し、解決する力を養う



問題提起

問題をどのように見つけるか

世の中の諸問題を発見するためには、学問体系に縛られず幅広い視野のもとで物事と対峙することが必要。まずは自分の興味・関心に気づき、自らのテーマを発見することからスタートし、より多角的な思考を身につけます。

〈科目群〉

総合講義、多文化交流ゼミ、実践科目

総合講義

特定のテーマについて第一線で活躍中の講師を招き、世の中の現状や問題点を理解。多様な視点で物事を考える力を養います。また同時に、自らの興味や関心を発見する機会としても活用し、自分の進路を見極めるための第一歩とします。



技法の修得

問題解決をどうやって進めていくか

さまざまな問題を解決するには、情報の質を見極め、主体的に選別する能力や技術が必要。自分の思考を磨き、多様な考えに触れることで考えを具体的なカタチにする力を身につけます。また語学と情報のスキル修得も必要です。

〈科目群〉

教養ゼミ、基礎ゼミ、Practical English、Advanced Practical English、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語）、情報コミュニケーション入門

Practical English

英語の基本的スキル（読む・書く・話す・聞く）を身につけ、英語を使い、英語で考え、英語で学べる語学力の修得を目指します。TOEFL 500点を最低達成水準に設定。Practical English Centerが全面的にサポートします。



専門との連携

専門知識と結びつけ課題の解決へ

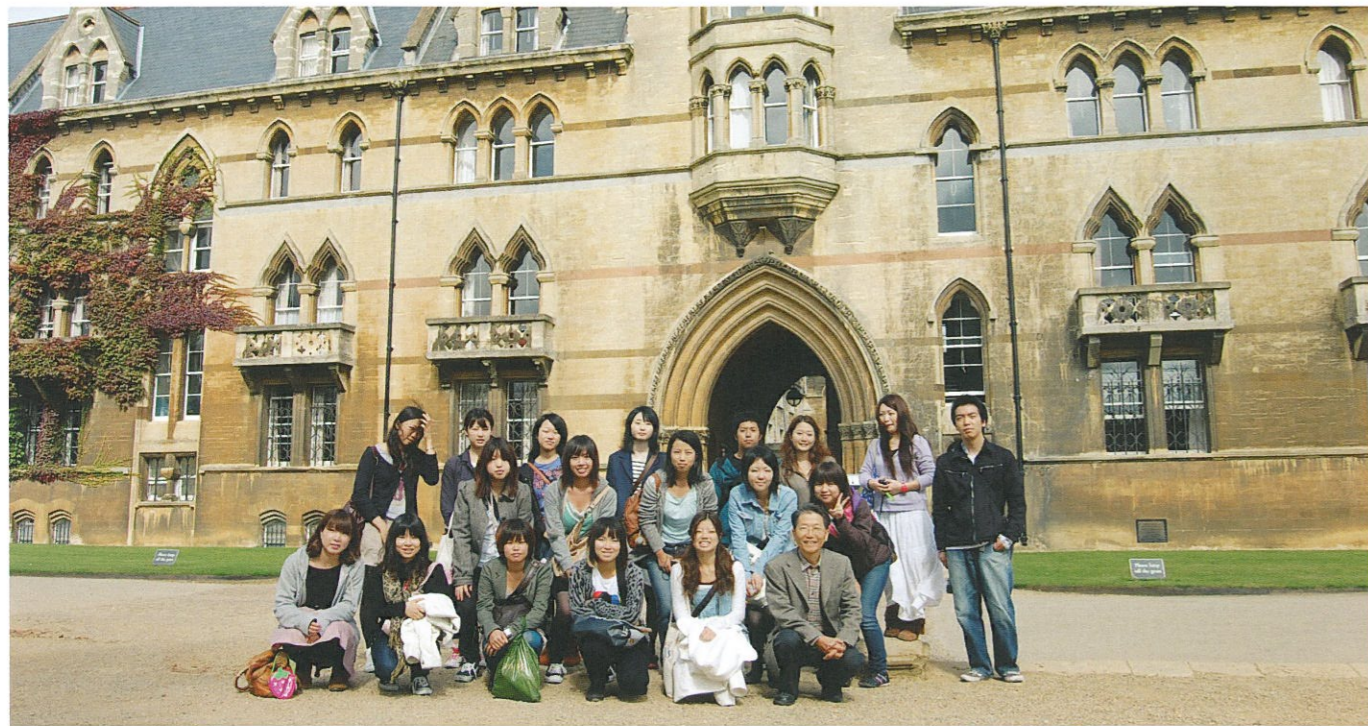
1年次からの共通教養と2年次からスタートする専門教育とを連動させた教育内容を展開。専門教育にスムーズに移行するための知識と技術を身につけ、課題の解決へと導きます。

〈科目群〉

基礎科学講義

基礎科学講義

2年次から専門科目を学ぶための入門的科目や、専門知識を活用したり、異なる専門知識を結びつけるヒントを与えてくれる科目から構成されています。



イギリスでの海外フィールドワーク

国際教養学系

■人間科学コース ■社会関係論コース ■国際文化コース

国際化する現代社会における人間の諸活動を
多角的視点から総合的に解明します。

[学位]: 学士(国際教養学)

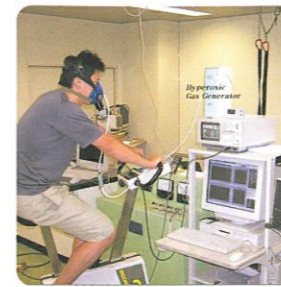
[目指す人物像]: グローバル化が進む世界において、人間とその社会的・文化的活動を総合的に理解するためには、身体・心理・社会・文化・価値など幅広い知識を修得し、多角的な視点で諸問題にアプローチする必要があります。また、多様な言語・宗教・民族・価値観をもつ人々が共存する現代の国際社会では、人々が直面する問題を発見し、解決策を探るような多面的な思考力やコミュニケーション能力も求められます。国際教養学系では、こうした能力を身につけ、世界のさまざまな文化と価値観に共鳴するとともに、人間を総合的に理解したうえで多様な人間が共生できる社会を形成する人材を育成します。

3つの領域が有機的に連携し合い、
多様な人間が共生できる
社会の仕組みを創造します。

多面的な視点からの考察力を身につけるため、3つのコースそれぞれの科目を横断的に履修できるカリキュラムを用意し、人間・社会・文化に関する学際的学習を行います。また討論、調査、発表などの経験を積めるよう、演習を必修としますが、総合性を高めるために複数の演習を履修することも可能です。そして4年次には、学生自身がテーマを決めて、教員のアドバイスを受けながら卒業論文を作成。各自が問題意識をしっかりと持ち、それを明確化できるのであれば、どんなことでも卒論のテーマとして設定できます。



人間を知り、社会を学び、文化を理解して現代社会に羽ばたくための3つのコース



■人間科学コース

人間を精神、身体、価値、発達の側面から多面的に考察します。

「人間」を知るには、人間の体と心と価値に関する考察が必要です。人間科学コースでは、人間の身体的構造、心理的メカニズム、価値判断の問題、成長・発達・教育などについて、原理的・実践的に考察を深め、新たな社会を築く視座と能力を身につけた人材を育てます。そのために哲学、心理学、精神分析、身体科学、教育学などの分野の科目を置いています。



■社会関係論コース

日本および世界における社会的諸問題にアプローチします。

社会的な視点から現代の諸問題をとらえ、解決策を考えることができる人材を育てます。社会を歴史的経緯を含めて構造的に理解し、格差社会や貧困化、人権問題、ナショナリズムなど、さまざまな社会現象をタブーなしに取り上げます。社会理論、多文化社会論、日本・欧米社会史、福祉社会論、コミュニケーション論などの領域の科目があります。



■国際文化コース

世界の諸文化を様々な視点から考察し、国際理解を深めます。

国際文化コースでは、日本文化と比較しながら世界の多様な文化への理解を深め、国際化時代における人間の有り様を探究できる人材を育成します。エスニシティ文化論、比較文化論、文化人類学、文化交流史、日本文化史、言語学などの分野について幅広く学べます。翻訳・評論・演劇などに関わる教員も多く、創造の世界に触れることも可能です。

Topics

双方向の授業で広がる友達と学びの“輪”

国際教養学系の3つのコースでは、全員が演習(ゼミ)と卒論を履修します。そのほかにも少人数の授業が多く、学生一人ひとりが意見を述べたり、教員と学生間、学生同士でディスカッションしたり、発表するといった双方向のスタイルがめずらしくありません。授業を通じて友達の輪が広がり、友人関係によって研究が深まります。

また、様々な分野の科目があるので、入学後に専門分野を決めることも、いろいろな学問を学ぶこともできます。また、現実課題の解決には多様な観点からのアプローチが必要ですから、興味関心のある問題に関する人間・社会・文化の学問を学んで解決策を考え、卒論にまとめることもできます。



多文化共生を学ぶ2つの演習

国境を越えてヒトの移動が進んでいます。地域でも職場でもさまざまな文化的背景をもつ人々が生きる社会になっています。そんな時代の多文化共生を研究する2つの演習を紹介します。どちらも、国際社会・多文化社会に関する理論と歴史を学びながら、横浜・神奈川をフィールドとして、多文化状況が進む地域を見学したり、そこに住む人々にインタビューしたり、関係者をゲスト講師に招くなどの活動を行っています。滝田ゼミは、とくに地域社会を“マイソリティ”の視点から考えます。坪谷ゼミはグローバル化時代のアジア地域における民族共生の条件を探ります。





国際シンポジウム

国際都市学系

■まちづくりコース ■地域政策コース ■グローバル協力コース

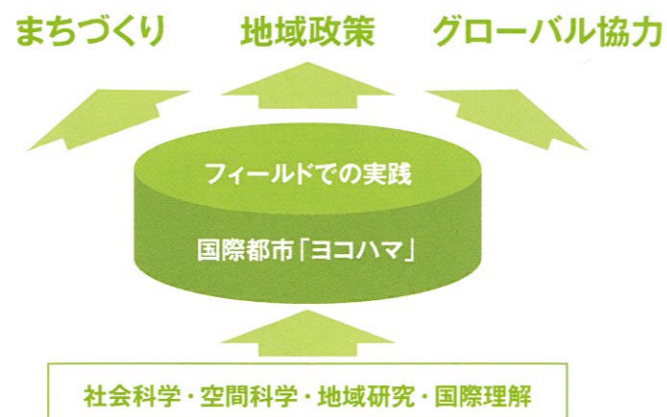
現代世界の都市や地域が抱える様々な問題に、グローバルかつ学際的な視点で取り組みます。

[学位]: 学士(学術)

[目指す人物像]: 国際都市学系では、グローバルな知識と学問的な洞察力を備えつつ、現代的な課題に応える国際社会・都市社会を構想し、地域やコミュニティの問題について解決策を導き出せる人材を育成します。社会科学・空間科学・地域研究などの諸分野から、国際社会理解、都市社会理解、多文化理解を軸とする幅広い知識と教養を蓄えるためのカリキュラムを構築し、それらを社会の具体的な問題に応用することが可能です。また、フロンティア精神や起業マインドを身につけ、鋭敏な感覚をもって課題を「発見」し、諸問題の状況を積極的に「調査」し、得られた知見を綿密に「分析」して「考察」するという、一連の創造的な過程を修得することもできます。

21世紀の都市の課題である
持続可能な多文化共生社会の創造に、
さまざまなステージで貢献します。

国際都市「横浜」は、21世紀の世界の都市が抱えるさまざまな課題を共有しています。つまり横浜の課題は、世界の都市共通の普遍的な課題でもあるのです。国際都市学系の3つのコースでは、既存の学問をベースとしながら、フィールドに出て都市の課題と実際に向き合っって学び、知識と経験をもって実践的に活動できる人材の養成を目指します。同時に国際都市横浜にふさわしいグローバルな視野を持ち、世界の舞台上で貢献できる人物を育てます。



まち、地域、グローバル社会、それぞれのフィールドで活躍するための3つのコース



■まちづくりコース

都市が抱える課題に具体策を提案できる人材を育てます。

横浜という「まち」を具体的なフィールドとして、時代の変化に対応した都市の姿を構想し、まちづくりを通して都市の課題の解決に貢献できる人材を養成します。安全で住みやすいまち、環境に配慮した持続可能なまちなど、豊かな将来を市民参加で築いていくための手法をフィールドワークを通して身につけていきます。



■地域政策コース

地域の問題に政策面から提言できる能力を身につけます。

少子高齢化、環境問題、新たな産業の創出など、都市はこれまでにない問題の解決を迫られています。物があふれる現代に本当に豊かな暮らしを実現する、そうした将来の展望をどのように描いていけるのか。「地域」が直面するさまざまな課題を的確に把握し、その解決に必要な方策を提言できる人材を養成します。



■グローバル協力コース

地球社会の多様な問題解決に果敢に挑戦する若者を養成します。

地球規模の課題や世界各地の諸問題を深く考察し、フィールドワークなどの体験を重視し、国際協力に関する幅広い知識と確かな語学力を身につけ、地球社会の問題解決に果敢に挑戦する若者を育てます。主にアジア地域の都市および大学、そして国際機関との協力関係を活用し、活躍の舞台を広げます。

Topics

国際都市学系の学びの特長に「実習」があります

●まちづくり実習

国吉・鈴木ゼミではゼミ活動の一環として、大学周辺の金沢区や京急黄金町駅周辺のまちづくりに取り組んでいます。黄金町地区はかつて違法な売買取手行為が行われていた地区ですが、一時は大量の空き家を抱え、様々な課題を抱えていました。現在は地元、行政、警察、大学が協力し、文化芸術による地区の再生に取り組んでいます。地元と共同運営する拠点「コガネックス・ラボ」を中心に、アートイベント「黄金町バザール」への参加やコミュニティの再生へ向けての様々な取り組みを学生主体で行っており、実践の中から、新たな都市デザイン・まちづくりの可能性を学んでいます。



●海外調査実習

「海外調査実習」では、国際協力機構のJICA横浜や、提携校であるマレーシア科学大学の支援を得て、マレーシア半島部において10日間の実習活動を行います。経済発展、格差是正、環境問題など多様な問題に関心を抱きつつ、マレーシア科学大学の学生との議論をはじめ、JICA協力隊員派遣先において国際協力の現場の見聞や関係機関を訪問しての情報収集、さらには現地でのホームステイ体験など、豊富なプログラムが組まれます。実際に現地に赴く前には事前の準備をしっかり行い、帰国してからは公開の報告会を開催します。最後に報告書を作成することによって、実習の成果を形にしています。





ゼミの様子

経営科学系

■経営学コース ■会計学コース ■経済学コース

グローバル経済における多様な価値観を理解し、合理的な経営判断ができる人材を育てます。

[学位]: 学士(経営学)、学士(会計学)、学士(経済学)

[目指す人物像]: 経営科学系では、グローバルなビジネス・経済社会での多様な価値観を理解し、合理的な意思決定能力と実行力を備えた人材を養成します。そのために必要となるのが、問題発見や課題解決の際に必要な分析力と他者を説得するコミュニケーション能力です。これらは経営科学系の学生に共通の素養となりますが、さらに経営学、会計学、経済学の3コースを設け、専門性を深化させた学びを展開します。経営学コースではグローバルに企業経営の課題をとらえ、解決できる人材を育成し、会計学コースでは世界共通のビジネス言語である会計数字を的確に理解できる人材を育成します。そして経済学コースでは、国際標準の経済学の理解と現実への応用力を備えた人材を育成します。

経営学、会計学、経済学、
そして法律学の理論と実践応用力で、
現実社会の課題を解決します。

激化するグローバル競争下では、迅速に課題発見し、解決する力が求められます。そのためには多様な考えを理解する広い視野と研ぎ澄まされた感性が不可欠です。広い視野は、経済学、経営学、会計学、および法律学の基礎理論を学ぶことで身につきます。つまり1つの現象を異なるレンズで見ることができるようになります。研ぎ澄まされた感性は、専門性の高い科目の学習で鍛えられます。そして最終的にゼミの学習を通じて、広角の視野と鋭い感性とを総合的に磨き込んでいきます。



国際社会をリードし、勝ち抜くための“専門性”を身につける3つのコース



■経営学コース

企業経営において生じる問題を解決する能力を身につけます。

経営組織論、経営戦略論、マーケティング論、経営情報論などの基本的な知識を修得したうえで、企業に関する社会現象を分析・理解し、新たな戦略とマネジメントシステムを創造できる能力を身につけます。これによって問題を発見する力や課題を解決する力とともに、組織を束ねるリーダーシップも養成します。



■会計学コース

会計理論を学び、企業経営の本質を数字の面から理解します。

企業業績を適切に測定するための会計学の理論を基礎とし、これに国内および国際的な会計基準や企業法、税法の知識などを付加します。これら“土台”となる知識をもとに、財務諸表(決算書)を分析するためのスキル、企業業績を改善するための手法、および株式への投資判断の基礎となる企業価値評価の手法を身につけます。



■経済学コース

経済学や金融論の理論的理解と数量的分析力を育成します。

ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学などの基本的知識を修得したうえで、グローバルに広がる市場経済や国際的な金融市場、あるいは行政に関する社会現象について分析・理解する能力を身につけます。その上で“Cool Head”で“Warm Heart”にものごとを評価することのできるバランス感覚を鍛えます。

Topics

経営科学系の学生生活の中心となるゼミ
その多様なアクティブ・ラーニングの数々を紹介



大学の授業をイメージしてください。多くの人が、大教室で一方向的に説明を聞くスタイルを思い浮かべるのではないのでしょうか。もちろん、そういったタイプの授業もありますが、経営科学系の授業の本質は「ゼミ」にあります。ゼミとは、ドイツ語のSeminarに由来する言葉で、科目名としては「演習」といいます。教授と学生が少人数で議論するタイプの授業です。経営科学系では約30のゼミが開講され、学生たちは2年生から4年生までの3年間、ゼミを中心に学習することになります。ただし、学習する内容はゼミによって様々です。自ら課題を設けて自発的に学習を進める「アクティブ・

ラーニング」の実践例も多数見られます。写真はそんなゼミ活動の1コマです。教室の枠を飛び出し、横浜市へ政策を提言したり、神奈川産学チャレンジプログラムや日経STOCKリーグに参加しての受賞。グローバルな視野を身につけるための海外フィールドワーク実習。さらには、自分たちの学習成果を出版したり、特許権を取得したりといった取り組みもあります。このようなゼミ活動を通じて、教授やゼミの仲間との絆が生まれます。経営科学系のゼミは、学生時代だけでは終わらない生涯にわたる知的絆を提供しているのです。





実験の様子

理学系

■物質科学コース ■生命環境コース ■生命医科学コース

自然現象を物質と生命の観点から多角的に捉え、独自の能力を発揮できる人材を育てます。

[学位]: 学士(理学)

[目指す人物像]: 理学系では、物理学、化学、生物学、地学、数学分野を統合的に理解して自然現象を物質と生命の観点から多角的に捉えることを目指しています。理学に携わる人間には、社会における自然科学の意義を認識し、自らのテーマを社会に説明する能力も求められます。専門分野においては自らの研究テーマを追究するための実験手法への習熟はもとより、計画立案能力、研究成果を国際的舞台上で発表する豊かな表現力、他分野の研究者とも円滑にコミュニケーションを図れる能力が必要です。理学系では共通教養とも連携して、基礎から応用にわたる科学の課題を俯瞰しつつ、広い視野で自らのバックグラウンドに根ざした独自の取組を展開出来る人材を育成します。

物質と生命をキーワードとする

未来社会を支える

サイエンス・イノベーション

エネルギー、環境、食料、疾病、自然災害など現在われわれが直面している難問を解決してよりよい未来を切り開くために、従来の学問体系を超えた新しいコンセプトが求められています。理学系では、各コースがそれぞれ、物質科学コース [ものづくり・実験的計測・理論的予測]、生命環境コース [生命の機能・生物多様性・生物資源利用]、生命医科学コース [生体物質の構造と機能・生体機能と病態/医学] の観点からアプローチを行うとともに、相互に連携・協力してコース横断的な教育にも取り組み、未来社会を支える科学の領域を開拓します。



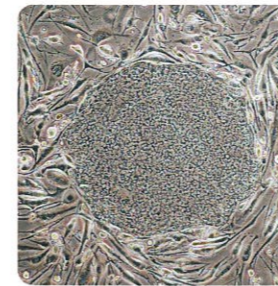
人類の未来に貢献するための最先端技術に触れられる3つのコース



■物質科学コース

現代の先端科学技術を基礎から理解し、未来の技術へと展開できる人材を育成

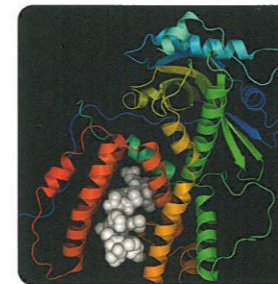
物質の構造、性質、反応を自然科学の基本原則に基づいて、電子、原子のレベルで理解し、それらを自在に制御する物質科学の基礎を学習できます。この基礎的な学習が、物質創製、計算科学、計測科学へと展開し、現代の最先端科学技術であるナノサイエンス、新エネルギー開発、先端医療などに結びついています。



■生命環境コース

生命の機能、環境、生物資源等、バイオ領域に秀でたフロントランナーを育成

動・植・微生物が見せる精緻で多様な生命現象、内外の環境に対する応答と適応の仕組みを、遺伝子、細胞、個体のレベルから体系的に教育します。ここで学べた科学知識や実験技術で、将来、器官再生研究や機能性食品開発、生命圏の維持など、次世代に必要な生命科学をリードし、安全で豊かな地球環境づくりに取り組める研究人、産業人を育みます。



■生命医科学コース

21世紀に求められる生命医科学分野のエキスパートの養成

生命現象を原子・分子のレベルで学習し、生命医科学の独創的な研究に携わる人材を養成します。本コースの特徴は医学系と理学系の教員によるハイブリッド型の教育を行うことで、生体物質の構造・機能に関する物質科学と生体の機能・病態に関する医学の双方を学び、新たな生命医科学分野を切り開くバイオニクス的な研究者や産業人を育成します。

Topics

生命医科学コース——医学と理学のハイブリッド型教育が新たにスタートします!

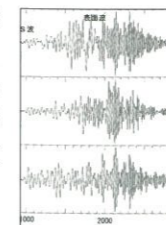
「ライフサイエンス都市横浜」構想の中核をなす本学鶴見キャンパス（大学院生命ナノシステム科学研究科 生体超分子システム科学専攻）では生命科学の最先端をゆくタンパク質やDNAの構造や機能の研究と大学院教育が行われてきました。平成24年度からは、この鶴見キャンパスの教員と、福浦キャンパスの医学部・医学研究科に属する教員が連携して進める生命医科学コースを国際総合科学部理学系に新設します。これによって、国際総合科学部理学系教育は、物質科学コース、生命環境コース、生命医科学コースの3コース体制に再編されます。

新設される生命医科学コースでは、他の理学系コースと連携して自然科学を幅広く学び、原子・分子の基礎的な動きやその原理を理解したうえで、生体物質の構造や機能を学び、基礎生物学から臨床医学の現場における課題を俯瞰できるような人材を育成します。



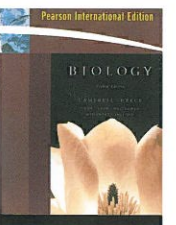
地震研究センターにおける取り組み

物質科学コースでは地震に関する理学的研究と震災の軽減を目指し、地震研究センターにおいて、震源、地震波の伝播、地盤の応答などに関する研究を行っています。横浜市には150ヶ所の観測点があり、得られた記録を分析し、市の震災軽減対策の策定に貢献しています。



生物の研究好きの意欲を高める学習プログラム

海外の生命科学者とも研究成果を議論できる若者を育てたい。この発想から生命環境コースでは、教員が一丸となり、世界で最も読まれているキャンベル著「BIOLOGY」を使ったバイリンガル講義を始めて3年になります。英語による動画と復習クイズを活用し、将来のサイエンティストへの第一歩を踏み出してください。





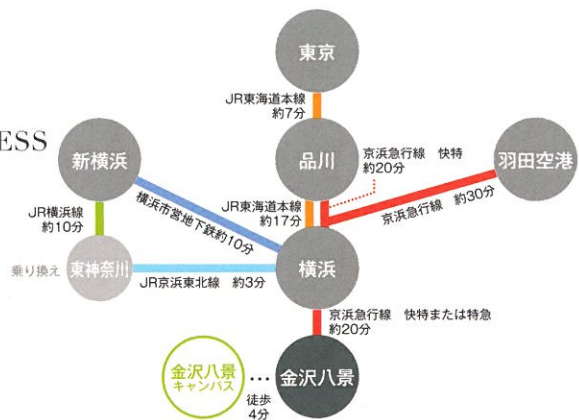
公立大学法人 横浜市立大学

〒236-0027 神奈川県横浜市金沢区瀬戸 22-2

tel.045-787-2055 fax.045-787-2057

www.yokohama-cu.ac.jp

ACCESS



平成24年度 国際総合科学部入試日程

区分	学系	募集人員	出願期間	試験日
AO入試	国際教養学系	30	8月29日(月)	[一次] 書類審査
	経営科学系	10	8月31日(水)	
	理学系	10	※締切日消印有効	10月15日(土)
海外帰国生 外国人留学生 社会人	国際教養学系	若干名 (各区分)	9月12日(月)	10月8日(土)
	経営科学系	若干名 (各区分)	9月14日(水)	
	理学系	若干名 (各区分)	※締切日消印有効	
推薦入学 (指定校制)	国際教養学系	40	11月1日(火)	11月19日(土)
	経営科学系	70	11月4日(金)	
	理学系	35	※締切日消印有効	
一般選抜	国際教養学系	140	1月23日(月)	2月26日(日)
	経営科学系	240	2月1日(水)	2月25日(土)
	理学系	75	※郵送必着	2月25日(土)

※ 8月～12月は平成23年、1月～2月は平成24年

平成23年度 オープンキャンパス日程

プレオープンキャンパス	6月18日(土)	10:00～16:00
オープンキャンパス	8月8日(月) 理系	10:00～16:00
	8月9日(火) 文系	

※詳細については、大学公式ホームページでご確認ください。